

科目名	刑法各論 I	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			総合政策学部	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Criminal Law I	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年	
			開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	くさか かずひと	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	日下 和人	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	条文を中心として、様々な解釈（特に体系的解釈）の方法を身に付ける。			
到達目標	条文を見ただけで、論点・争点が思い浮かぶ。 条文に言葉を補ったり、他の条文と対比したりして、解釈を作り上げることができる。 判決文を読んで、判例法理を抽出できる。			
授業概要	条文から始めます。六法は必ず持参してください。 判例も学説も、条文と結び付けて講義します。六法が連想の端緒となるように仕上げます。 六法を法律家の仕事道具に仕立て直します。			
授業計画				
第1回	導入 生命に対する罪			
第2回	傷害罪 暴行罪			
第3回	脅迫・強要罪			
第4回	逮捕・監禁罪			
第5回	略取・誘拐・人身売買の罪			
第6回	住居侵入罪			
第7回	名誉に対する罪 条文構造			
第8回	名誉に対する罪 真実性の証明			
第9回	財産罪総説			
第10回	窃盗罪 不法領得の意思			
第11回	窃盗罪 「占有」			
第12回	強盗罪 (236条)			
第13回	強盗罪と関連する罪 (237条～240条)			
第14回	詐欺及び恐喝の罪 構造			
第15回	詐欺及び恐喝の罪 判例学習			
第16回	前期定期試験			
授業時間外の学習	文部科学省の大学設置基準第21条に基づき、4時間をお願いします。 予習2時間：講義のテーマに関する情報に積極的に接し、疑問点および現時点での考えをまとめておく。 復習2時間：講義を踏まえつつ、問題を復習する。			
履修条件 受講のルール	私語厳禁。			
テキスト	特に使いません。教科書はまだ買わないで下さい。（6月になってから身の丈に合ったものを購入してください。） 講義時に使用するスライド集は、ポータルサイトを通じて配布します。			
参考文献・資料	講義で扱う問題集・スライド集は、以下の教科書を参考にして作成しています。 曾根威彦『刑法各論』〔第5版〕（2012・弘文堂） 松原芳博『刑法各論』〔第3版〕（2024・日本評論社）			

	購入する必要はありません。
成績評価の方法	<p>以下のうち、高得点の方を成績とする。</p> <p>(1) 定期試験の成績 100%</p> <p>(2) 定期試験の成績 50% 平常点 50%</p> <p>(最高得点者には必ず「秀」を与える。)</p> <p>初回の講義で説明します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日 13:00～17:10</p> <p>金曜日 13:00～17:10</p> <p>(他の時間も居ります。来室を歓迎します。出席回数については自己管理をお願いします。)</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>毎回、頭の動作について言及しますから、そこだけは我が物としてください。</p> <p>理路を辿れるようになることも大切ですが、理路を作れるようになることも大切です。</p> <p>構造を見抜こうとする姿勢があれば、自分で作れるようになります。</p>